

1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年 7月 25 日

【評価実施概要】

事業所番号	4075600090
法人名	有限会社 三益
事業所名	グループホーム 田苑
所在地	〒 822-0101 福岡県宮若市福丸247-1 (電 話) 0949-52-0625

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番地48号		
訪問調査日	平成20年7月6日	評価確定日	平成20年7月25日

【情報提供項目より】(平成 20年6月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	9 人	常勤	3 人	非常勤	6 人	常勤換算	8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	なし			
保証金の有無 (入居一時金否)	100,000円	有りの場合 償却の有無	無し	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100	円	

(4) 利用者の概要(6 月 6 日現在)

登録人数	8 名	男性	名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 88 歳	最低 79 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	有吉病院 吉成歯科医院 福岡聖恵病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム田苑は宮若市(旧若宮)の中心街の住宅に抱かれるように建てられた、木造平屋1ユニットのホームである。昨年より地域の自治会に加入している。運営者が総会に出席することでホームへの理解や協力をお願いしやすくなり、ホームも地域の方々にグループホームや認知症及び介護について知って頂きたいと外部から講師を招聘して開催している苑内研修に地域の方々に参加を呼び掛け、参加者の方々から大変喜ばれている。苑周囲の花壇では数多くの花や季節の野菜が育てられ、入居者の散歩道になっている。その花壇で毎年育てられたカサブランカは各部屋に飾られ、芳しい匂いで入居者や来苑者が癒されたり、採れたての野菜は食事の材料として食卓をにぎわし伴食の際の雰囲気作りに多いに役立っている。施設長を始め事務長・管理者は働き易い職場確保がホーム理念の具現化に通じると、職員の希望を取り入れた勤務体制を実施しており、その成果は退職者が少ない事からも伺える。今後は地域の同業者で立ち上げた「GH宮若」と連携しながら、地域密着型サービスの周知やケアの質の向上に期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスの理念である「地域住民との交流の下..」を実践したいと地域との関わりを多く持つようにしている。また、人権研修に参加し、パンフレットを活用してホーム内で研修したり、身体拘束虐待防止マニュアル・非常災害マニュアルの整備、東京センター方式を活用したアセスメント表の整備、食品や飲料水の備蓄など、前回の外部評価結果に沿った改善が見られる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価について全職員に説明し、自己評価に取り組んでいる。これからの課題を挙げ、今後の取り組みを確認している。
重点項目③	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、会議呼びかけ書面や会議録は整備されている。会議ではホームの現状や外部評価結果を報告し、運営推進委員の意見や助言を職員と共有しながらサービスの改善に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	日ごろから家族の来苑時に入居者の状況を報告したり、介護支援記録を開示している。急変時や受診時にはその都度電話報告をしている。協力医療機関に定期健康診断をお願いしている。預かり金の出納は職員2名で確認し、入金時は家族の確認や署名がある。成年後見制度を利用している入居者もあり、資料・パンフレットが整備され制度を周知している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、総会に参加することでグループホームのことを理解していただく機会を得ている。盆踊りや祭り、獅子舞・祈祷祭等に参加出来、入居者も喜んでいいる。ホームが通学路に面していることから、下校時には犬や花を見るため立ち寄り寄る学童も居て、入居者は楽しみにしている。講師を招いての苑内研修に地域の方にも参加を呼びかけ、認知症や介護について理解できたと喜ばれている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの理念に沿ったホームの理念である「地域の一員として生活し、人間の尊厳を持って生きていく支援を行う。」を重要事項説明書に明記し、入居者・家族、訪問者の見易いところに掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は朝の申し送り、毎週のミーティング、毎月の勉強会で運営理念の5項目について職員と話し合い、介護計画に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、総会に参加することでグループホームのことを理解していただく機会を得ている。盆踊りや祭り、獅子舞・祈祷祭等に参加出来、入居者も喜んでいる。ホームが通学路に面していることから、下校時には犬や花を見るため立ち寄る学童も居て、入居者は楽しみにしている。講師を招いての苑内研修に地域の方にも参加を呼びかけ、認知症や介護について理解できたと喜ばれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価について全職員に説明し、自己評価に取り組んでいる。これからの課題を掲げ、今後の取り組みを確認している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、会議呼びかけ書面や会議録は整備されている。会議ではホームの現状や外部評価結果を報告し、運営推進委員の意見や助言を職員と共有しながらサービスの改善に活かしている。	○	運営推進会議を円滑に、また実りある会議にするために実施規程が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会ある度に行政の窓口に出向くことで、市の担当者や介護保険広域連合の担当者より指導や助言を受けている。地域の同業者で立ち上げた「GH宮若」の研修会に行政職員の参加を呼びかけ、実現している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 官埋者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる	管理者や職員は人権研修や権利擁護に関する研修に参加している。成年後見制度を利用している入居者もあり、資料・パンフレットが整備され制度を周知している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日ごろから家族の来苑時に入居者の状況を報告したり、介護支援記録を開示している。急変時や受診時にはその都度電話報告をしている。協力医療機関に定期健康診断をお願いしている。預かり金の出納は職員2名で確認し、入金時は家族の確認や署名がある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情・意見箱を設置し、重要事項説明書にも行政機関やホームの苦情相談窓口を明記している。家族会と5周年記念行事を取り組む要望あり、運営推進会議における家族の意見として運営に反映している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や事務長・管理者は職員の勤務希望を配慮しているため、退職者が少なく一番新しい職員でも現在3年間勤めている。介護者の心の安定がよりよい介護に繋がり、ひいては入居者へのダメージを少なくしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員募集は特に条件はなく、現職員は介護の仕事に生きがいと社会貢献を感じながら生き生きと勤務している。雇用契約は取り交わされ、休息は適宜取れるので休息時間に外出する事もある。定期健康診断も行われている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権学習会に参加し、毎月の勉強会やミーティングにて周知を図っている。パンフレットやマニュアルを整備し、質の向上に役立っている。身体拘束について入居契約書に明記し、身体拘束虐待防止マニュアルを作成し、苑内で学習している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に沿って地域の同業者団体であるGH宮若の研修会や福岡県グループホーム協議会Fブロックの研修に参加している。また、毎月の勉強会に他施設の看護部長を講師に招き、質の向上に取り組んでいる。職員の悩みなどは運営者や事務長・管理者が対応している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会や地域の同業者団体であるGH宮若にも加入し、研修会や交流等に参加しサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にホームの雰囲気を知っていただきたいので、見学に来て頂きおやつと一緒に食べたり、カラオケを歌ったりしている。また、体験入居を通じて、安心して入居できるよう家族と共に馴染みの関係作りに取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であり尊厳の気持ちを持ちながら共に過ごし、支えあう関係作りに配慮している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体操時間に昼食やおやつの好みを聞くなど、日常生活の中で思いや意向を把握している。東京センター方式で生活暦や職歴の情報を収集し、アセスメントに活かしている。	○	東京センター方式を活用して、何ができるかや衣・食・住での希望、趣味、行きたい場所等を把握し、本人の視点にたった週間サービス計画書の作成をお願いしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者・家族・職員で話し合い、介護計画を作成している。介護計画には、本人の希望、総合的な方針、具体的な介護内容が記載され、了承した家族の署名がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の来苑時に介護計画を説明し、疑問点や要望等を伺っている。3ヶ月毎に計画の見直しをしているが、状況が変化した時はその都度見直し検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関やかかりつけ医の受診等は家族の要望に応じて、柔軟に対応している。利用者が以前生活していた家や住んでいた地域の訪問を支援することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や各入居者の希望する主治医への通院を支援している。受診には施設長や管理者が関わり、その都度家族に状況を報告している。受診結果は医療受診ファイルで管理している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に関する指針を整備しているが、今のところ対象者がいない。その状況になれば、主治医と家族・本人・管理者等で話し合う予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報利用目的を明記した承諾書を作成し、入居者および家族と取り交わし、玄関にも掲示している。ホーム理念に明記している入居者の尊厳を考慮した声かけや対応を実践している。人権に関する研修に参加し、職員に伝達や周知をしている。	○	個人情報の保護に関する規程の整備が望まれる。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者に合わせたペースで無理をしない取り組みをしている。入居者本人の要望が少ないので、日々の関わりの中から思いを汲み取るようにしている。催し物の参加を拒否する時は無理をせず個別の関わりを持つようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立希望などを聞き、取り入れることもある。入居者の体調に応じて下ごしらえや配膳の準備、後かたづけをお願いしているが、食中毒を考慮しながら対応している。全職員が伴食し、和気藹々としたよい雰囲気である。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回入浴しているが、散髪時は全員が入浴している。入浴拒否者には入浴できる条件として、1番風呂を勧めたり、介助者を変更したり、家族に声掛けをお願いしたりと色々工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各自のしたい事や出来る事として、カラオケ、観葉植物の世話、野菜作り、テレビでの野球・相撲観戦、散歩、おしゃべりなどを役割や楽しみ事に取り入れている。歌が好きな人が多いので入居者のハーモニカに合わせて歌うことが多く、野菜作りなどはアドバイス頂くこともある。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日ごろはホーム周囲に設けられた花壇や菜園の見学しながら散歩している。祭りの山車や盆踊りは苑の庭先で見学して楽しんでいる。ドライブは年間を通じて計画し、花見に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近隣の派出所、消防署、市役所支所、老人福祉センター等には理解や協力をお願いしている。玄関にはセンサーが設置されているが、以前入居者が無断外出し、職員の出勤時に一緒に帰ってきた事もある。また、歩行が不安定だったり、頻尿のためトイレ回数多い場合は、室内センサーを設置し安全を確保している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、自治会、組長、ボランティアの協力を得て、昼間・夜間の2回の防火訓練を実施している。火災防止マニュアルや役割分担一覧表も作成している。消火器が設置され、食料品や水の備蓄がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の身長・体重・病状・動きに応じた食事や水分摂取を支援し、記録している。1日の食事摂取カロリーは800～1300kcalと少なめでは有るが、主治医からの指導の下で算出されている。毎月の体重測定値も考慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、台所、居間等には苑の花壇で育てられたカサブランカの花が飾られて良い香りを漂わせ、入居者や家族、訪問者の目も楽しませている。玄関には掛けて靴が履けるように木のベンチが設置されたり、寛げるようにソファが置かれている。台所からは全居室が見渡せ、居間・食堂兼ボランティアのステージとしても利用できる上がり座敷があり明るい空間となっている。空気清浄機の設置やアロマセラピーなどで防臭対策をして		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはホームで用意されたベットがあり、入居者が自宅で使いなれた馴染みの日用品が置かれている。また位牌の前にはお水、お茶、お花などが供えられた居室もあり、それぞれの個性が活かされた居室となっている。		